

● 目次

- 2 ひと人ひと (戴 懿 さん)
- 3 春の叙勲・褒章、危険業務従事者叙勲
受章者紹介
- 4 **特集** もう付けましたか？
住宅用火災警報器
- 8 情報ランド (お知らせ)
- 15 2010年は国民読書年
- 16 みんなの本棚／児童館へ行こう
- 17 イベント情報
- 18 広がれ！市民のわ／
市長コラム／市長談話室
- 20 市民相談
- 21 休日医療情報／不用品活用銀行
- 22 まちの顔
- 24 等伯公演&七尾東雲高校第1期生
卒業公演／わが家のアイドル

● 今月の表紙

今年で7回目となった「花嫁のれん展」が、4月29日から5月9日まで一本杉通りで行われた。29日に行われた花嫁道中では、地元一本杉町出身の通電太さん(32歳)と神奈川出身の垂希さん(29歳)が地元住民や観光客に祝福されながら通りを練り歩いた。

花嫁のれんは、県内や富山県西部に伝わる風習で、花婿の家の仏間入り口に掛けられる花嫁の嫁入り道具。のれんをくぐった花嫁は、仏壇に手を合わせて先祖にお参りをする。

今ではすっかり春の風物詩となった花嫁のれん展。全国からも注目され、地域の活性化に大きく貢献しているこの取り組みから学ぶべきことは多い。

ひと

ヒト



皆さんとの出合いを
楽しみたい！

七尾市国際交流員

戴

懿

さん

七尾市の皆さん、初めまして。4月16日に七尾へ来た国際交流員の戴懿(タイ イ)です。

私は中国の東北地域にある遼寧省の營口市という小さな町で育ちました。性格は明るいほうだと思います。外国語の勉強がとても好きで、北京語言大学で日本語の勉強を始めました。大学を卒業し、ジェトロの北京事務所で1年間ほど働いた後、大連市役所で国際交流の仕事をしていました。

日本に留学したことはありませんが、働くのは初めてなので緊張と不安もありましたが、温かく歓迎され、ホームシックにはなりませんでした。七尾市はきれいな海に囲まれて、自然に親しめるところだと思います。この前、能登島ガラス美術館を見学に行きました。不思議なガラス美術品がたくさんあり、とても素敵だと

ころでした。館内から見える海の景色はあまりにもきれいで、言葉にならないほど感動しました。

日本には仕事で何回か短期間来たことはありましたが、こんな身近に日本文化と触れ合うことは初めてです。これからのいろんなことを体験し、たくさんの人と仲良くなり、多くの日本の知識を身に付けたいと思います。また、中国の最新情報を皆さんにも紹介し、日中文化を比べながら、中国語教室や異文化理解などのイベントをやりたいです。

5月8日に北大呑公民館の子どもたちと交流した時、面白いことに気づきました。折り紙、あやとり、十二支の話は全部同じ。でも、同じ漢字を使う文化なのに違いもたくさんありました。新たな発見をしながら、日中友好のためにがんばります。よろしくお願ひします。

長年の功績に光

長年にわたりそれぞれの分野で尽力された方々が、荣誉に輝かれました。

春の叙勲

●瑞宝单光章●

なかむら そうきち
中村 惣吉さん
(73歳) 盤若野町



元七尾鹿島広域圏事務組合
第1消防団副団長

昭和33年から約35年間、地域の安全を守る消防団員として尽力。高階分団長を経て、七尾鹿島広域圏事務組合第1消防団副団長を3年間務めた。「早く消火することが第一ですが、水をかぶると建物は使い物にならない。放水を必要最小限に抑えることにも注意しました」と火災現場での気遣いをみせる。「年をとっても、何かの役に立てれば」と、退団後も火災があれば現場へと足を運ぶ。

●瑞宝小綬章●

でさきの のぶや
出崎 允也さん
(75歳) 中島町豊田



元公立高校長

昭和32年から38年間、高校教師として尽力。旧中島町教育長や七尾市教育委員長を務めた。「数学という学問が好きで、教師の道を選びました。生徒たちに数学を好きになってもらいたくて」と、数学教育に力を注いだ。「いつも恩師や同僚、生徒たちにも恵まれました。思い浮かぶのは楽しいことばかり。今でも教え子たちが家に遊びに来てくれるんですよ」と充実した毎日を送る。

春の褒章

●藍綬褒章●

せんごく てるお
仙石 輝雄さん
(73歳) 田鶴浜町



保護司

昭和60年から24年間、犯罪をした人の更生の援助など、保護司として犯罪のない地域づくりに貢献。「初めは全く話もしてくれなかった人が、がんばっているからねと親しげに報告してくれるようになることも。そんなときは何ともうれしい」と笑みを見せる。76歳の定年まで残り2年半。家でゆっくりすればとの声も周りからはあるが、「走り回っているほうが楽しくて」と生きがいを感じている。

●瑞宝单光章●

くぼ さちこ
久保サチ子さん
(62歳) 矢田町



元西湊保育園長

昭和47年に七尾市社会事業協会に保育士として採用。西湊保育園園長として退職後は、事務長として園の運営を支える。「とにかく楽しい毎日でした。思い返すと、自分を支えてくれた仲間の顔が浮かび、その中心にはいつも子どもたちの笑顔があるんです」と楽しげに話す。「これからも常に子ども目線で、子どもの笑顔がなくならないように、自分の経験を伝えられれば」と前を見つめる。

危険業務従事者叙勲

●瑞宝单光章●

きたはし しゅうぞう
北橋 周三さん
(61歳) 南ヶ丘町



元3等陸尉

昭和44年から33年間、自衛官として、北海道・兵庫・京都・金沢の駐屯地に勤務。金沢では、分隊長として戦車が通るための橋の建設を指揮。一方で、通信、物品調達、倉庫管理など事務的な業務に携わることが多かった。平成12年には、22年ぶりに噴火した北海道有珠山を災害派遣で訪れ、火山灰除去作業にも従事した。「北海道の大豪雪地帯で行われた訓練はつらかったが、今ではいい思い出です」と当時を振り返る。

●瑞宝双光章●

ささき きよし
佐々木 清さん
(70歳) 下町



元七尾鹿島広域圏事務組合
消防指令長

昭和36年に消防へ入り、消防指令長として退職するまで38年間勤務。阪神淡路大震災では、石川県代表の一人として神戸市へ災害派遣。「360度どこを見ても悲惨な状況。そんな中で、現地の人たちは心から喜んでくれました。現場でのごくろうさん」のひと言がいつも励みでした」と当時を思い返す。「先輩や同僚に恵まれ、みんなの理解と協力があったからこそ、務まりました」と仲間への感謝の気持ちが込み上げる。